

令和8年7月3日
札幌開発建設部

札幌開発建設部の2事業が「全建賞」を受賞！

～石狩川下流自然再生事業(幌向地区)と幾春別川総合開発事業(新桂沢ダム)が受賞～

このたび、石狩川下流自然再生事(幌向地区)が地域主導の連携体制による湿地保全した点が、幾春別川総合開発事業(新桂沢ダム)が積雪寒冷地における新旧堤体接合部の品質を確保しつつ完成させた点がインフラ整備の事業又は施策の部でそれぞれ評価され、【令和7年度全建賞】を授賞しましたのでお知らせします。

令和7年度全建賞受賞事業 2件

○受賞部門 : インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

○受賞事業名 : ①石狩川下流自然再生事業(幌向地区) ※別紙1参照

②幾春別川総合開発事業(新桂沢ダム) ※別紙2参照

※【全建賞とは】<https://www.zenken.com/hypusyou/hyousyou.html>

全建賞とは、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々々の国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授賞がなされてきました。

【問合せ先】①国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所

副所長 旭 (電話番号 011-382-2358)

計画課長 西村 (電話番号 011-382-2358)

②国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 幾春別川ダム建設事業所

副長 坂井 (電話番号 01267-6-7101)

調査設計班長 遠藤 (電話番号 01267-6-7101)



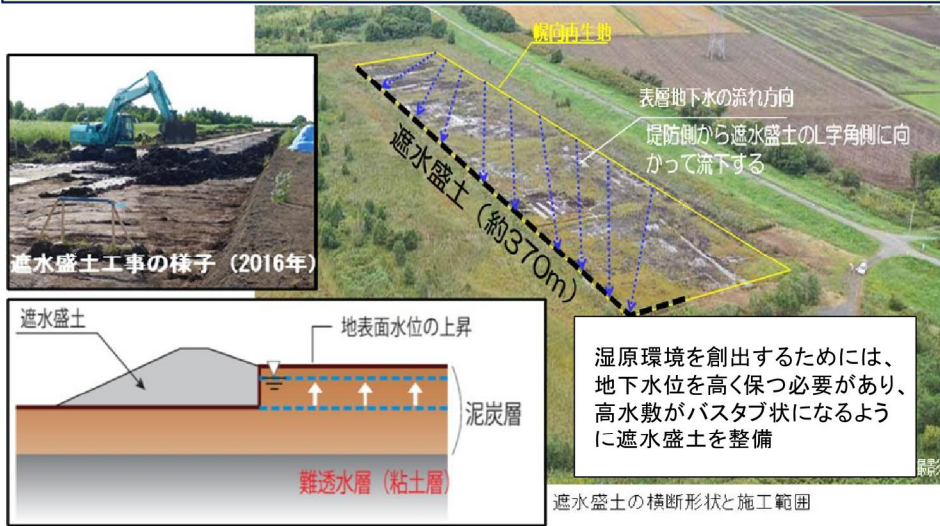
札幌開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/>

【事業の概要】

- ◆ 開拓期以降、流域の発展を目的とした夕張川の治水事業や周辺の農地開発が進展した反面、それに伴い消失の危機にあった**幌向原野の湿原環境等の復元・再生を目的とする事業**です。

【評価のポイント】

- ◆ 遮水盛土により1万平方メートルを超える湿地環境を創出し、専門家や地域団体等と連携した約8,000本の湿生植物の導入を行うとともに、事業完了後の保全活動の継続を見据え、地域の関係組織を構成員とした「ほろむい七草の会」が設立され、**地域主導の連携体制による湿地保全と観光振興を実現した点が評価**されました。



遮水盛土の整備



地域住民による湿性植物の育苗



近隣小学校の地域学習



外来種駆除と堤防のゴミ拾いイベント



行政・公的機関

- 江別河川事務所
- 美幌市
- 空知総合振興局
- EPO北海道

民間・NPO

- 雪印種苗株式会社
- しあっぷるネット
- H.RYOKUKOU

研究・教育機関

- 札幌工科大学
- 札幌市立大学
- 星置養護学校
- 農研機構
- ほろむい七草の会
- 技術コンサル
- ECOTECH

幌向地区自然再生の推進体制



授賞式の様子



事業実施前後の幌向自然再生地の様子

【事業の概要】

- ◆ 昭和32年に完成した北海道初の直轄多目的ダムである桂沢ダムを嵩上げする新桂沢ダムとともに、幾春別川の支川である奔別川に三笠ぽんべつダムを新たに建設することにより、**流域の安全を守り、広い地域に水を供給する事業**です。

【評価のポイント】

- ◆ 直轄ダムで初めてとなる重力式コンクリートダムの同軸嵩上げにおいて、**積雪寒冷地における新旧堤体接合部の一体化という技術的課題に対し**、温度応力解析に基づく越冬面への給熱や土木分野初となる真空断熱材の採用による保温養生等の工夫を講じ、**品質を確保しつつ完成させた点が評価**されました。

新桂沢ダム概要

新桂沢ダムは昭和32年に完成した桂沢ダムを嵩上げて建設し、令和6年4月に管理移行しました。
桂沢ダムでは、現在求められている治水・利水の機能を満足できないため、同軸嵩上げにより貯水容量を増大しました。

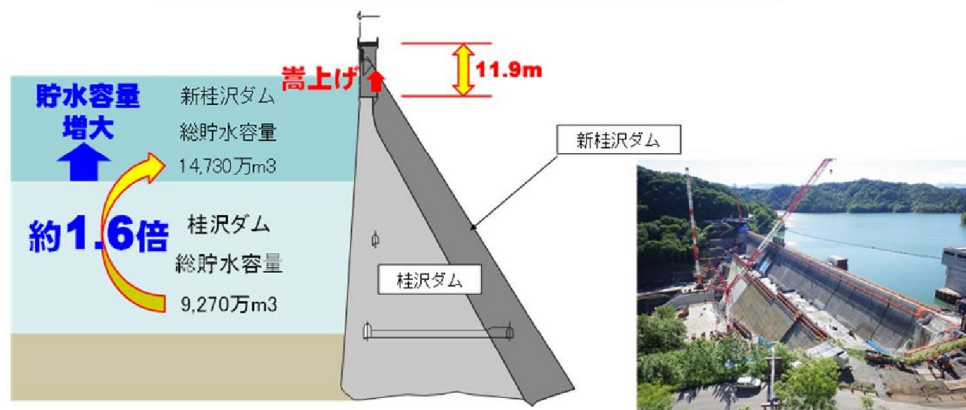
総貯水量 147,300千m³

堤頂長 397m

提高 75.5m

2023年8月撮影

直轄ダム初の同軸嵩上げでダム再生を実施



越冬面への対応



真空断熱材の敷設



授賞式の様子